

2025.3 / VOL.34

ボードレス・アートミュージアム
NO-MA ニュースレター

展覧会レポート①

人生はボードレス! 作家たちの今と回想録

展覧会レポート② Borderline
地域インタビュー あのひとの近江八幡スタイル
Hedgehog珈琲 店主 橋 三枝子さん



「人生はボーダレス! 作家たちの今と回想録」
 2024年7月27日(土)~10月13日(日)
 〈主催〉ボーダレス・アートミュージアムNO-MA
 社会福祉法人グロー〜生きることが光になる〜
 〈後援〉滋賀県、滋賀県教育委員会、
 近江八幡市、近江八幡市教育委員会
 〈協力〉草の実会草の実工房もく、しがらき会信楽青年寮、
 中野あいにく会杉の子城山、るんぴにい美術館、
 若竹福祉会、近江八幡観光物産協会、
 しみんふくし滋賀、マエダグリーンニング仲屋店

開館から20年目を迎えるNO-MAがこれまで出会った作家は、いまどこで何をしているのか。カメラマンを本業とする大西暢夫が、NO-MAスタッフとともに作家本人や家族、支援者を訪ね、現在の姿をカメラに収めました。そして大西が過去に撮影した写真とあわせて展示し、「写真」「インタビュー」「作品」の3つの要素で展覧会を構成しました。今回出展した作家のうち4名は、現在も変わらず制作を続けています。

吉澤健は昔と変わらず、街を歩き、看板などの文字を小さなノートにびっしりと書き込んでいました。喜舎場盛也は、現在は、カラフルなドットの作品を描くことが多いのですが、お父様の話では、自宅で漢字を敷き詰めて描く作品も制作しているそうです。佐々木早苗は、四角や丸、織り、文字のような作品など、興味関心の移り変わりにあわせて作品が変化しているようでした。西本政敏は、変わらず木で人形を制作していましたが、関節まで動く仕組みになっていた過去の作品とは違い、現在の作品に関節が曲がる仕組みはなく、髪も木を彫って表現されていました。

一方、宮間英次郎はパフォーマンから離れており、本展の取材で訪問した際は、当時の思い出を語ってくれました。本展開催に際し、宮間と改めて会い、話を聞いたことは、NO-MAにとっても大変貴重な機会となりました。

戸來貴規もまた、現在は制作をしておらず、本展ではへにつきVとあわせて、その元となったかもしれない、小学生の頃の連絡ファイルを展示しました。戸來自身が手書きするへにつきVと連絡ファイルの項目が近く、戸來にとって日記を書くことが日々のルーティーンの一つだったのでと感ずることができました。

伊藤喜彦は、NO-MA開館時の展覧会「私あるいは私」(静かなる燃焼系) (2004) にも出展した、NO-MAと関係性が深い作家です。今回は伊藤が施設で生活していたころの施設長と支援者にインタビューをし、大西のテキストとともに作品を展示しました。

大西は、「作品が生まれる背景には、家族や支援者が見え隠れしている」と感じていました。それと同時に、作品が広く周知されたことで、家族や支援者の力になってきたことも感じたそうです。

本展は「人生はボーダレス」とタイトルをつけ、作家本人や家族、支援者に視点を向けて「回想録」としてこれまでの軌跡を振り返りました。人生という長い時間のなかで



育まれる関係性と、そこから生まれる作品の素晴らしさ、大西が感じていた「作品が生まれる背景」を改めて感じるきっかけとなりました。

ノマ
Topic of
NO-MA
トピ

「人生はボーダレス! 作家たちの今と回想録」職員取材日記

企画展開催に際し、館長とともにNO-MAスタッフが全国各地を訪れ、作家の取材をしました。北は北海道から南は沖縄まで、スタッフがそれぞれの土地で感じたことを日記風にご紹介します。

伊藤喜彦さんが生前過ごされていた信楽青年寮を訪問し、伊藤さんを支援されてきた社会福祉法人しがらき会前理事長の林晋さん、職員の大菅矩久子さんからお話を伺いました。施設の中や仕事場での様子から、伊藤さんのおおらかで、誰からも愛され、そして素晴らしい作品を制作され続けてきたエピソードをたくさんお聞かせいただきました。

取材 ⇒ 山之内洋 (地域共生部 部長)



喜舎場盛也さんと出会った若竹福祉会の玄関では、猫が気持ちよさそうにごろごろしていました。カフェを彩る盛也さんの作品はとてもカラフルで、沖縄の青空と相まって、色鮮やかによみがえります。

取材 ⇒ 赤澤誉四郎 (自立生活支援員)



【沖縄県】



宮間さんと親交の深い小久保則和さん・良子さん、大西暢夫さんと宮間さん宅に向かって歩いている時、とにかくずっと宮間さんのことを笑顔で話していました。再会した時は少し戸惑いもありながらも、お互いに昔を思い出して馴染んでいく様子は当時を知らない私にとっても微笑ましい様子でした。

取材 ⇒ 山邊まみ (自立生活支援員)

【神奈川県】



西本政敏さんのご自宅を訪問。お昼を挟んで、午後からいつもルーティーンで、制作作業に熱中していました。制作途中の作品を見せてくれたり、完成した作品をきれいに洗面所で洗い流してから(プールに入ってから)、笑顔で見せてくれました。

取材 ⇒ 山之内洋 (地域共生部 部長)

【北海道】

今回の取材は、るんぴにい美術館へ。美術館近くの焼肉屋で岩手名物の盛岡冷麺をいただきました。本場の盛岡冷麺、おいしかったです。

取材 ⇒ 藤田爽乃 (自立生活支援員)



【岩手県】

取材に備え、前入りした盛岡市。観光名所は、徒歩でちょうどいい距離だったので、ミニ探訪を楽しみました。その道中で見かけた工事現場の仮囲いに、アール・ブリュット作品を発見。新たな名所になっていました。

取材 ⇒ 橋本悦子 (自立生活支援員)



【東京都】

吉澤さんが働く作業所を訪問。この日は、商品に入れる製作責任票に色を塗る仕事をされていました。はみ出してもいいように置かれた台紙は、端の方まで使われ、カラフルな色で埋め尽くされていました。

取材 ⇒ 松井裕紀 (主任)



展覧会レポート②

文：山邊まみ(本展担当)



「Borderline」

2024年3月9日(土)～6月16日(日)

〈主催〉ボーダレス・アートミュージアムNO-MA
社会福祉法人グロー～生きることが光になる～
〈後援〉滋賀県、滋賀県教育委員会、
近江八幡市、近江八幡市教育委員会
〈協力〉静内桜風園、日高アールブリュットネットワーク、
るんびにい美術館、やまなみ工房、
近江八幡観光物産協会、しみんふくし滋賀、
マエダクリーニング仲屋店
〈展示協力〉近江家具商人

企画展「Borderline」

はアラオ多枝子(NPO法人はれたりくもったり/アートディレクター)のキュレーションにて開催しました。この企画展のタイトルである「ボーダライン」という言葉を聞いて、「そっち側」「こっち側」のような境目や境界といったイメージをすることが多いかもしれません。

ボーダラインには「あいまいな」という意味もあり、本展では「も」と「アート」の境目はどこなのかと訴えかけてくるような、6作家、1企業の作品や商品を展示しました。そのなかから3作家の作品を紹介します。

まずNO-MAに入っすぐの前庭では山田浩之の壺の作品を壁に取りはらずに向こうを見る、来た人を出迎えます。2メートル近くある大きさと、割れているのに「壺」という形状のインパクトから展覧会のテーマを感じることが出来ます。

1階に展示した高丸誠のセロハンテープで作られたメガネの作品は1つが体験できるようにしており、展示台の上に設置した鏡の前に立って着用してみると「似合うかな?」といわんばかりに、つい前のめりになって自分のメガネをかけた姿を確認してしまいます。このように日常生活を思い起こさ

せるような光景は、アートを楽しむということが本当はこれくらい身近であって良いのだと思わせてくれます。

2階には、キュレーターが本企画展を考えるきっかけとなった作品、臼井明夫の「usui_box」シリーズが展示されています。作品はピンクや赤、花柄など、ポップな見た目をしています。臼井が生活していた施設にあった材料や廃材などで制作されています。定規などを使わないため、斜めだったり、台形だったり箱の形はどこかいびつですが、むしろそこに愛らしさを感じます。その見た目は裏腹にかなり精巧な造りをしていて、引き出しの部分はスムーズに開閉ができたり、蓋を開けると内蓋があったりして機能性の高さを感じるので、プレゼントするために制作をしたというところも、アートとしての価値だけではない作品のおもしろさがあります。

本展の作品は、「アート」かと思つたら用途があったり、用途があると思つたら機能性は無かったり。はたまたそれが美術的な価値を持つていたり。「作品」というカテゴリーにとらわれない、あいまいな部分をお楽しみいただけたのではないのでしょうか。



2階展示風景



1階展示風景

地域インタビュー ohsi-hachiman local interview



「お腹も心も満たされ、ほっとする場所でありたい」

Hedgehog珈琲 店主
おててと三階亭 オーナー

はし み え こ
橋 三枝子さん

聞き手：藤田爽乃(自立生活支援員)、山邊まみ(自立生活支援員)
文：山邊まみ(自立生活支援員)

近江八幡駅北口を出てすぐの路地を入ったところにあるHedgehog珈琲はヨーロッパで幸せを運ぶといわれている「ハリネズミ」という名前のカフェです。オーナーの橋さんが「お客さんに幸せになってもらいたい」という思いで名づけました。カフェの隣では「おててと三階亭」という雑貨店やワークショップスペースを運営されており、陶芸家としても活動する橋さんの作品や、カラフルな雑貨が陳列されています。

「以前は信楽で陶芸作家として活動していましたが体調を崩してしまい、この先どうしようかと考えていたとき、お姑さんが『ここでやったら良いよ』と言ってくれたことがきっかけで、8年程前に雑貨店をオープンしました。作家の友人に声をかけると、作品や商品を置いてくれて今のようになりしました」。

店名の「おてて」は「作り手」、「三階亭」は建物が元は3階建ての旅館であったことから名づけたそうで、人と場所、時間のつながりを感じさせます。

カフェは新型コロナウイルス感染症が流行し、雑貨が売れなくなったことがきっかけで、テイクアウトをメインにオープンしました。「おててと三階亭をオープンしたころに、色んな人が集まってお茶を楽しんでいたのですが、その時に来てくれていた人たちが『橋さんが淹れてくれるお茶がおいしいから飲みたい』と言ってくれたのもきっかけのひとつです」。



▲ハリネズミの看板と可愛い狸がお客さんを迎えます

橋さんは養護学校の講師、また、グローの企画では盲ろう者の方と楽しむコーヒーワークショップの講師を務めるなど、幅広く活動されていて、仲間やお客さんだけでなく、かかわる人の声やつながりを大切にされています。「お店はお客さんも隠れ家的な場所とってもらっているようで、一人でこっそり来店されることが多いです。悩みを話してくれたり、ここに来ると『ほっとする』と言ってくれます。ちなみにモーニングは飲み物にプラス150円でオムレツ、サラダ、ちょっとしたデザートがつけます。お客さんにお腹いっぱいになってもらいたいという気持ちでそうしました」。カフェは近江八幡の水を使って淹れたコーヒーやお茶、無農薬の野菜など素材にこだわったメニューが特徴で、体に優しい自家製スイーツやドリンクが楽しめます。Hedgehog珈琲はお腹も心も満たすほっとできる場所、そして小さな幸せを提供しています。

◀店内には橋さんの作品など、雑貨がにぎやかに並べられています

近江八幡 あのひとの スタイル



開催した展覧会の情報

【第21回滋賀県施設・学校合同企画展

ing…～障害のある人の進行形～】

2024年12月21日～2025年3月2日

前期：2024年12月21日(出)～2025年1月26日(日)／後期：2025年2月1日(出)～3月2日(日)

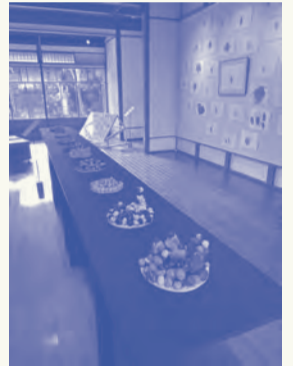
本展は、滋賀県内の福祉施設や地域の造形教室とボーダレス・アートミュージアムNO-MAが実行委員会を組織し、企画、展示する展覧会です。NO-MAが開館した2004年に第1回が開催され、今年で第21回を迎えました。出展者の日々の活動に寄り添う支援者の視点で作品が選ばれ、その魅力を最大限に引き出す展示を考えました。展示空間には、作者が制作に向き合う、あるいは支援者と関わり合う時間が凝縮されています。今年度は、滋賀県内の障害のある作家21名と1組の作品を2期にわたり紹介しました。

- 〈主催〉 第21回滋賀県施設・学校合同企画展実行委員会、ボーダレス・アートミュージアムNO-MA、社会福祉法人グロー(GLOW)～生きることが光になる～
- 〈後援〉 滋賀県、滋賀県教育委員会、近江八幡市、近江八幡市教育委員会
- 〈協力〉 一般社団法人近江八幡観光物産協会、社会福祉法人しみんふくし滋賀、マエダクリーニング仲屋店
- 〈助成〉 障害者芸術文化活動支援センター 運営費補助金(滋賀県)

〈前期〉能登川作業所 吉川賢 (感展示風景一部)



〈後期〉1階展示風景



【編集後記】 山邊まみ(自立生活支援員)

私の通勤時間は車で50分。通勤途中の住宅街近くの歩道で、学校の送迎バスを待つ高校生2人がいる。去年、4月の時点では少し距離があり会話をすることもなく、ただバスを待つだけだった2人。ところがゴールデンウィーク明けには何やら笑顔で話し込んでいた。ときどきどちらかが1人で待っている日もあったりして「おっ、今日は休みなのか」と思ったりする。バスに乗ったら別々に座るのかもしれないし、隣に座るのかもしれない。私はこの2人の素性も関係性も知らないけれど、通勤時間の8:20頃、しみじみと勝手に自分の学生時代を思い出す時間がある。勉強はそこそこに、部活に打ち込んでいたあの時。今思えばあつという間だった。この2人もいつかは学校を卒業して、毎朝の当たり前が終わる日が来たとき、もしくはしばらくしてから、今の尊い時間を思い出すかもしれない。さて、今の私は通勤で音楽を聴いていることが多いが、他に充実した通勤の方法をデスクの目の前にいる同僚に相談したところ、英語の聞き流しをしたらどうかと言われた。高校生2人がまた新しい生活をスタートさせるように、私も新しいことをやってみようかな、なんて思い始めている。(英語の聞き流しをするかどうかは置いておいて)

〈NO-MAグッズのご案内〉

作品のメモ帳やトートバッグなど、NO-MAのミュージアムショップやホームページからお買い求めいただけます。



トートバッグ 1,000円



メモ帳 380円

〈NO-MA企画展図録のご案内〉

右の図録3種はNO-MAおよびNO-MAホームページにて販売しています。過去に開催された展覧会の図録や関連書籍ポストカードなども取り扱っています。ぜひ、お求めください。



Borderline

〈価格〉1,200円(税込)
〈ページ数〉42ページ
〈サイズ〉21.0×29.7cm

「スペシャルおまけ」として、全6種類あるしおりから、ランダムで1種類がつきます。



人生はボーダレス! 作家たちの今と回想録

〈価格〉1,200円(税込)
〈ページ数〉36ページ
〈サイズ〉18.2×29.7cm



第21回滋賀県施設・学校合同企画展 ing... ~障害のある人の進行形~

〈価格〉600円(税込)
〈ページ数〉52ページ
〈サイズ〉18.2×25.7cm

合同企画展の実行委員(支援者)による作品解説と展示に込めた思いを掲載。「展覧会ができあがるまで」ではアーティストの野原健司氏のアドバイスを詳しく紹介しています。

ボーダレス・アートミュージアム NO-MA



滋賀県近江八幡市永原町上16

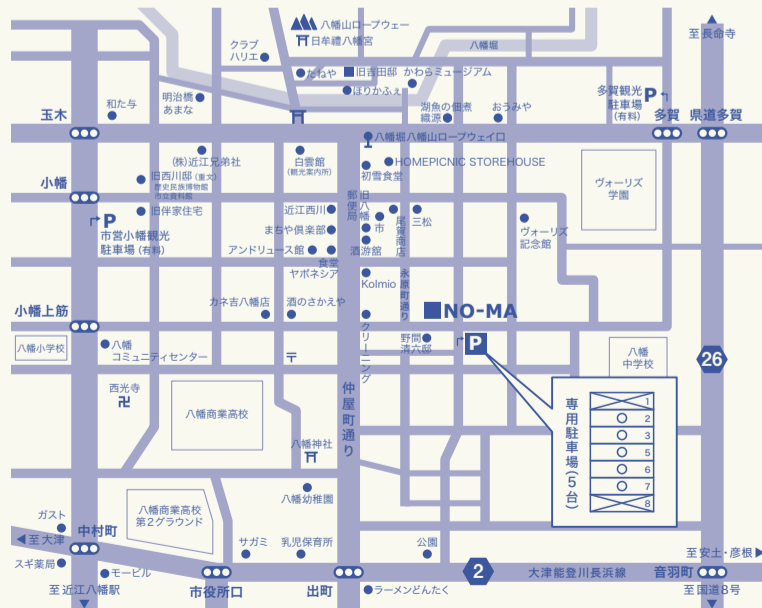
TEL/FAX 0748-36-5018

休館日：月曜日

(月曜日が祝日の場合は翌日休館)

E-mail no-ma@lake.ocn.ne.jp

https://no-ma.jp



NO-MA公式サイト
https://no-ma.jp/



NO-MAアーカイブ
https://no-maarchive.com/



公式Facebook
museumnoma



公式X(旧Twitter)
museum_noma



公式Instagram
@museum_noma



NO-MA YouTube
チャンネル

NO-MAでは、ホームページでの情報発信に加えて、SNSを活用した情報発信も行っています。

Access アクセス



バス JR近江八幡駅から近江鉄道バス(長命寺行き)八幡堀八幡山ロープウェイ口バス停下車徒歩8分。
車 名神高速道路・竜王ICより「近江八幡・国道8号」方面へ。国道8号「西横関」右折、「東川町」左折。国道2号「小船木町」右折、「出町」左折。(計30分)
自転車 JR近江八幡駅から徒歩30分、自転車10分。